



かゆいよ



皮膚の虫よけ剤について

去年はジカウイルス、その前はデング熱ウイルスと、蚊を媒介した感染症が日本でも発生しています。予防は、虫に刺されないようにすることで、長袖・長ズボンが一番ですが、そうも言っていない日本の夏。そこで、虫よけ剤が活躍します。色々な商品が販売されている中で、防蚊対策として、有効性が証明されている2成分を紹介します。

◎赤ちゃんにも使える「イカリジン(ピカリジン)」

日本では昨年3月に発売された成分です。5%程度含有している商品から、最高濃度15%の医薬部外品や医薬品が販売されています。年齢制限はなく赤ちゃんにも使えます。衣類やマニキュア、ストッキングの上からも使えます。

赤ちゃんも安心ね!



◎幅広く虫を除ける「ディート」

日本では昭和37年から販売されています。5%程度含有している商品から、最高濃度30%の医薬品が販売されています。イカリジン5%とディート10%は、同等の効果がありますが、ディートはイカリジンよりも多くの虫に対して忌避効果があり、イカリジンは、蚊・ブユ(ブユ)、アブ、マダニの4種類に対して、ディートは、それにプラスして、サシバエ・トコジラミ(ナンキンムシ)・ノミ・イエダニ・ツツガムシの9種類に効きます。しかし、6か月未満の乳児には使用できません。

首回りは、手のひらにつけてから塗ってあげましょう!



しっかりした効果を求めるかたには、この2成分のどちらかを含む医薬品をお勧めします。

いろいろな形の商品がありますが、エアゾール(ガスが入っている)タイプは、粒子が細かく飛散して、肌への吸着が低くなりがちです。吸い込み等に注意してムラがないように噴霧して下さい。首回りに噴霧する場合は、手のひらに一度噴霧し、その手で首回りにつけるようにしましょう。

目や口の周り、粘膜や傷口、肌の弱い所には使えません。小さいお子さんに使用する場合は、舐めてしまう手などには使用しないようにしましょう。

また、家の周りの蚊を増やさないためにもボウフラがわきやすい、よけいなタマリ水がないように注意しましょう。

薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、ぎふ薬事情報センターまで ☎ 058-247-5122

協力/ 岐阜県薬剤師会 〒500-8146 岐阜市九重町4-5 <http://www.gifuyaku.or.jp> 岐阜県薬剤師会 税関